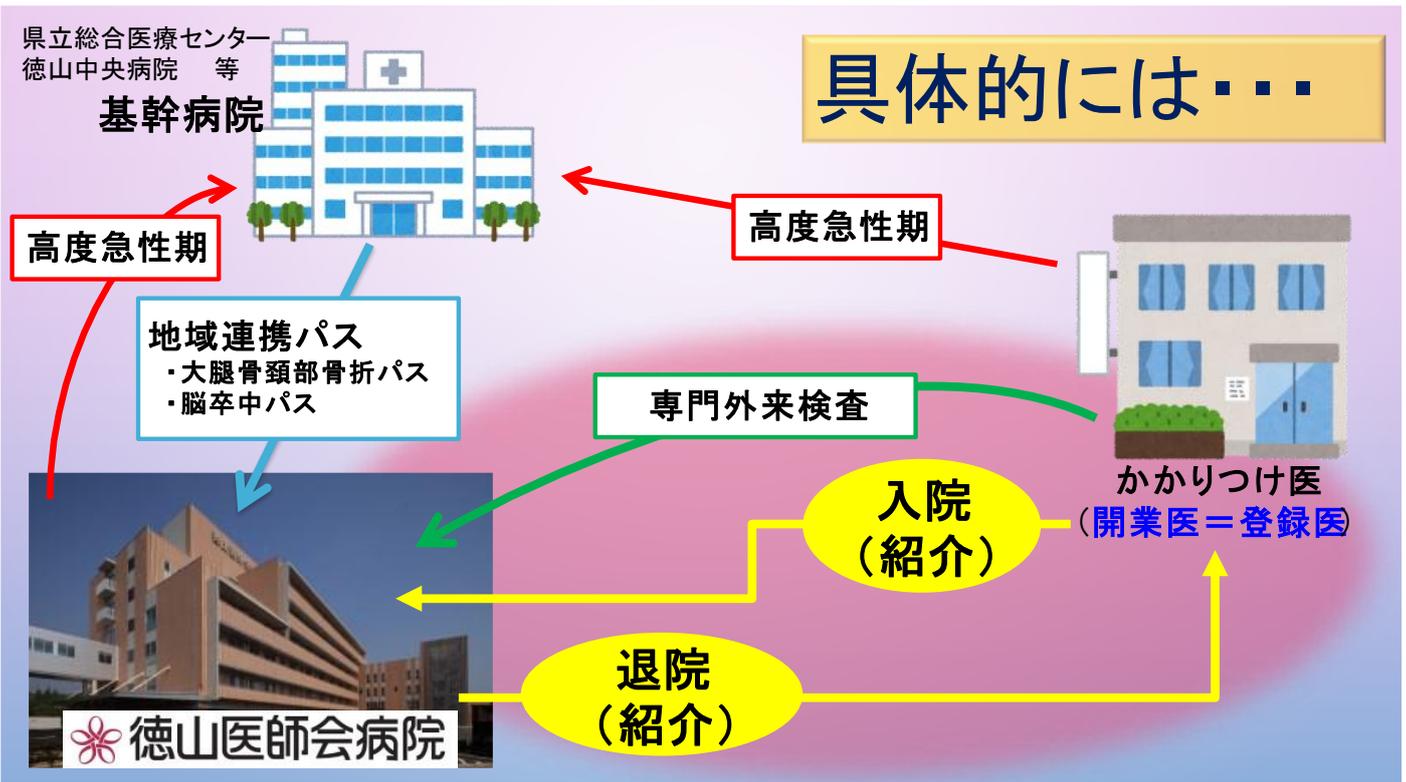


最初に、当院の最大の特徴である「オープンシステム」について説明します。

●オープンシステムとは？

アメリカに多い病院の形態。開業している専門医が、必要時に、契約している病院に患者を連れて行き、病院の病床や設備機器を使い、病院の常勤医師と共同で治療等を行う。



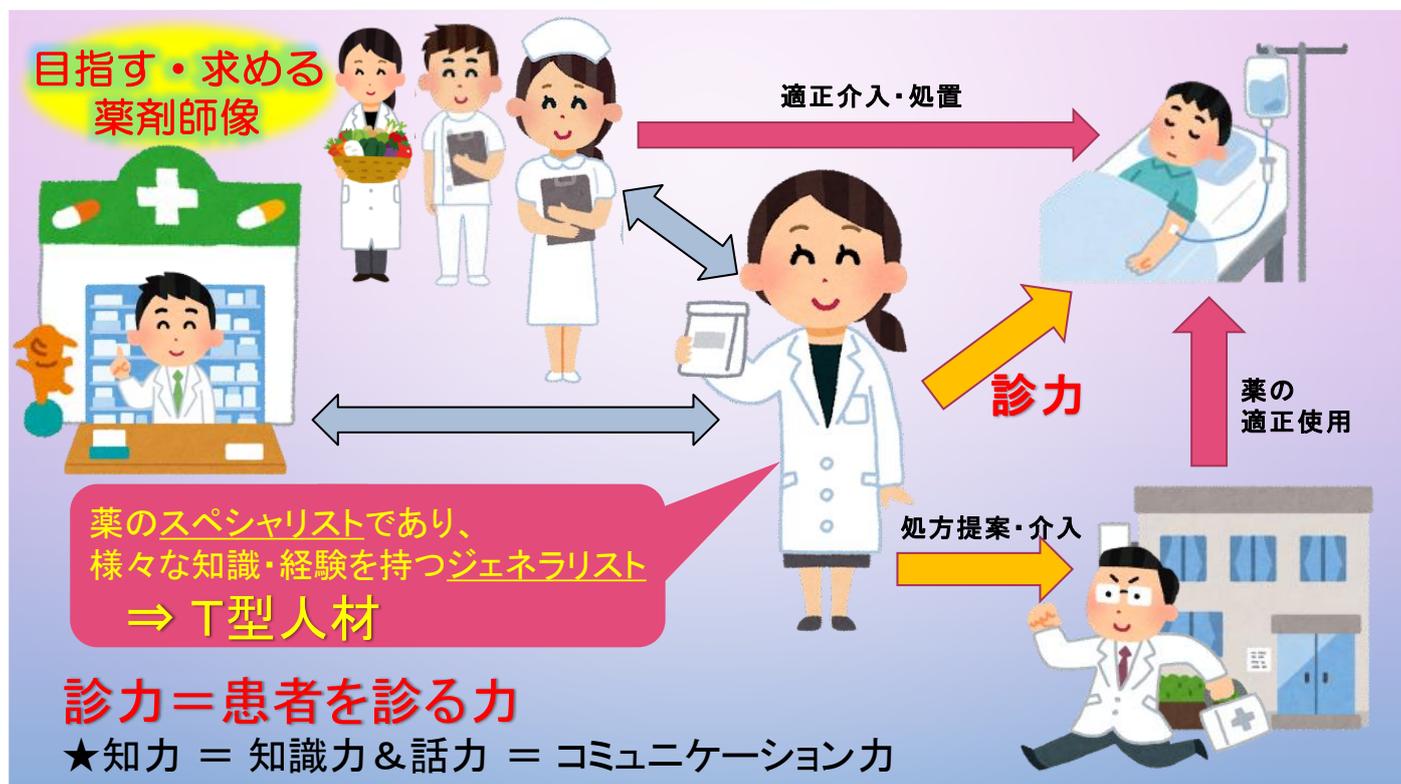
徳山医師会に所属している開業医（かかりつけ医）が、「入院が必要」と判断した際に当院へ紹介入院となります。患者さんは当院へ入院され、開業医が主治医として来院して治療にあたります。状態が良くなれば当院を退院され、再び主治医（かかりつけ医＝開業医）の医院を定期的を受診する、という流れです。

大きな手術や緊急対応など高度急性期治療が必要な場合には地域の基幹病院へ紹介され、そちらでの治療が行われます。緊急の状態は脱したが、退院はまだ難しい場合などには基幹病院から当院へ紹介入院となり、元々の主治医（かかりつけ医＝開業医＝登録医）が継続して治療にあたる、ということもあります。

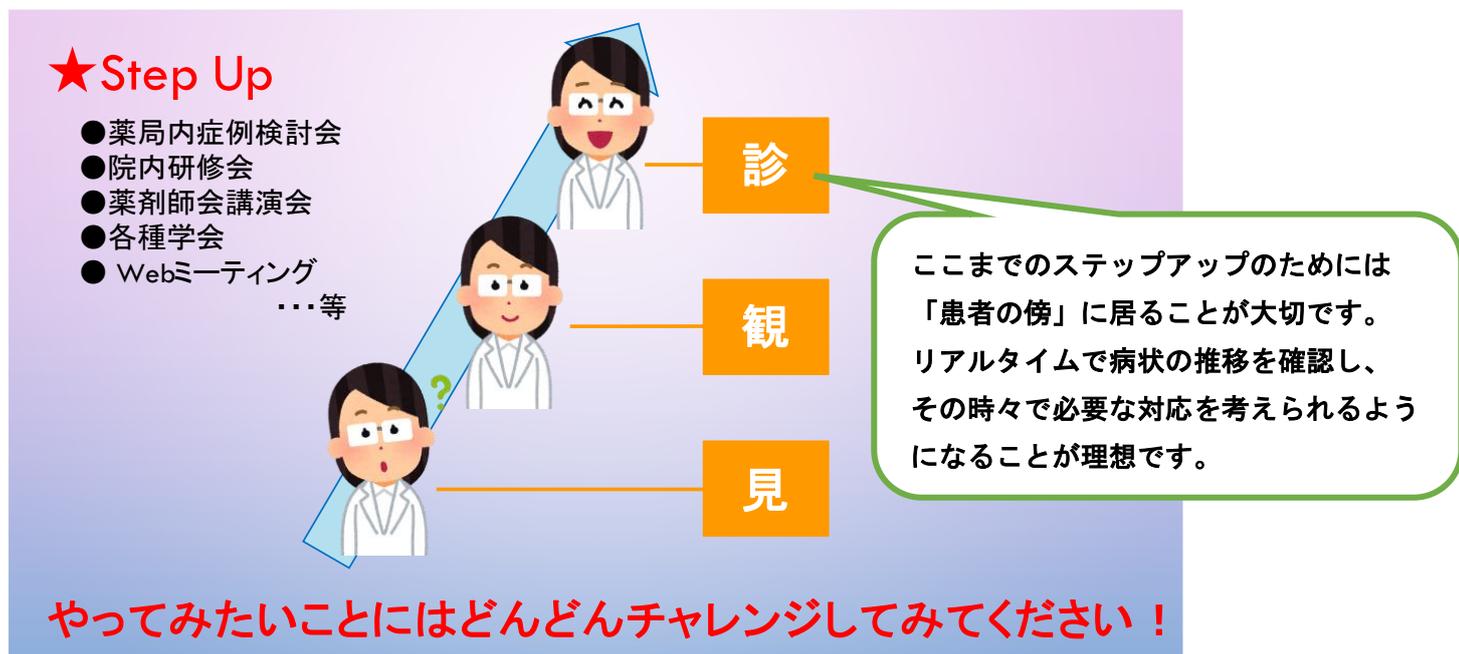
このような病院なので、日中は院内に居られる医師は 10 名ほどです。300 床を超える病院としてはとても少ない状態です（通常なら 50 名程度は居られます）。よって、その他の医療スタッフ間の連携がより大切になってきます。そのような中で「診力（薬局長の造語です）」つまり「患者さんを診る力」をつけ、

- ・主治医へは処方提案や介入を行い、薬の適正使用に繋げる
- ・看護師など医療スタッフとも適切なやり取りを行うことで適正な介入や処置が行われる

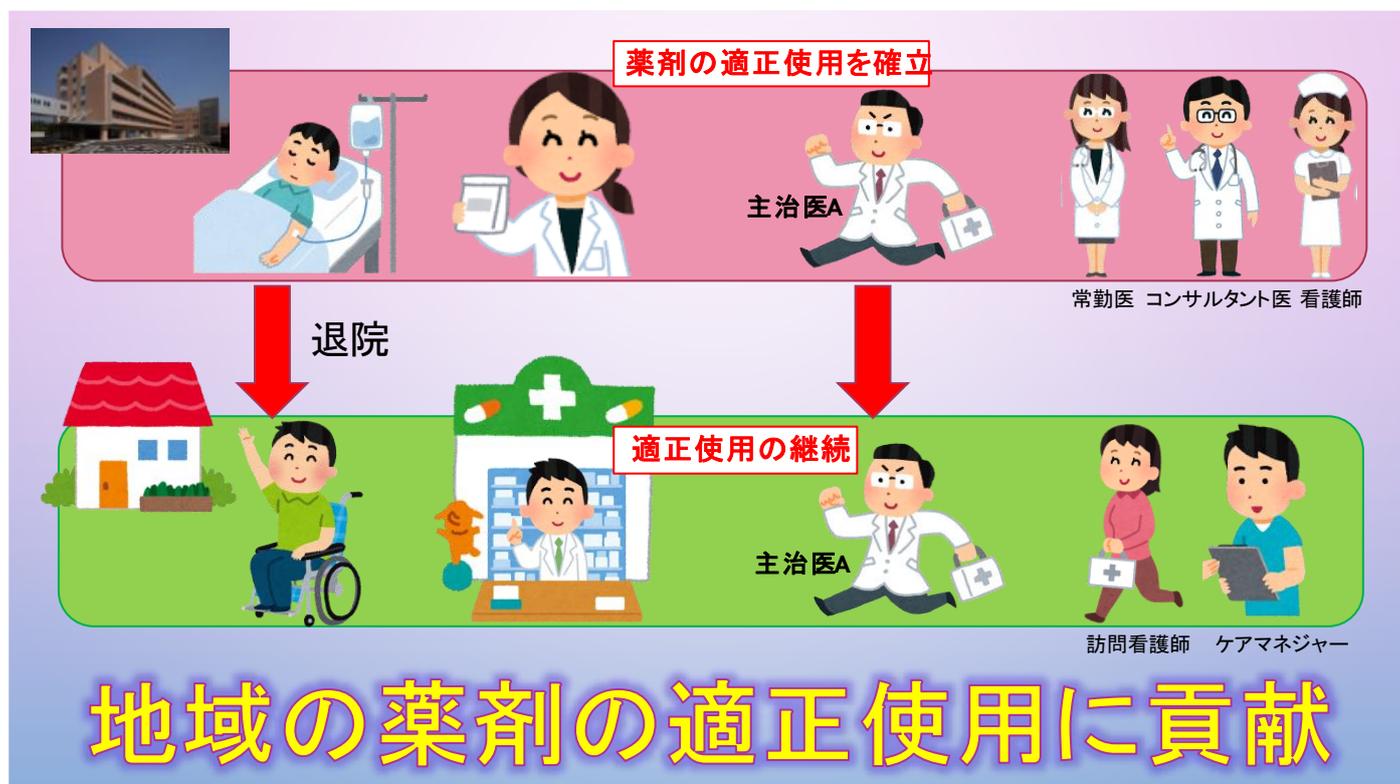
といったことを行う事ができるような薬剤師、つまり、薬のスペシャリストである薬剤師でありつつ、様々な知識・経験を持つジェネラリストでもある「**T型人材**」が必要になると考えます。



知識を高めるためには様々な勉強会への参加が必要かと思えますし、経験を積むためには行動していくことが必要となります。興味のあることにはどんどんチャレンジして、「見る（一般的）」から「観る（観察）」、そして「診る（自分なりの診断・判断）」ができるようステップアップを目指していきましょう。



このように薬剤師としての力を高めることによって、当院に入院して来られた患者さんへ薬剤の適正使用を確立することが可能となります。そして、当院は主治医が開業医であることから、当院で確立した薬の適正使用がそのまま退院後も開業医、つまり地域医療の場面でも継続していくことになります。つまり、「徳山医師会病院」の薬剤師でありつつ、「周南地域」の薬剤の適正使用に貢献できることに繋がります。



これらのことを行うためには医師や他部署スタッフからの信頼が必須です。信頼関係をこれからも構築し続けていくために、診力をつけるための日々の努力が必要であると考えます。